

指導者等	① 幼稚園・小学校・中学校教職員及びPTA役員 ② 学校評議員
主な活動内容	(事業の概要) 各校種間の一貫した教育を推進する
	(具体的な活動内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月7日 第1回実行委員会 幼稚園長、小・中学校校長、教頭、教務主任で構成 平成22年度の合同行事の日程を決定 ・ 5月31日 実践交流会担当者打合せ ・ 6月10日 第1回実践交流会（授業交流） 宮田西中学校において、各学級の授業を公開し 全体会において協議を実施。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月23日 第2回実行委員会 幼・小・中の実行委員及び・体育主任により運動会 の原案を作成 ・ 7月26日 合同職員会議 幼・小・中全職員による最終打合せ会議 ・ 9月10日 幼・小・中による合同練習（午前中） 小中合同による協議の練習及び中学生が考案した ダンスを幼・小の子ども達に指導 ・ 9月14日 小・中合同PTA役員会 ・ 9月15日 予行練習会（会場：笠松小）

- ・ 9月19日 第7回幼・小・中合同運動会（会場：笠松小）



- ・ 10月 7日 小・中合同PTA役員会
合同運動会の反省及び次年度に向けての確認
- ・ 10月20日 第3回実行委員会
運動会の反省及び次年度の向けての確認
第2回実践交流会（授業交流）にむけて
- ・ 11月 9日 小中PTA合同視察研修



- ・ 11月12日 第2回実践交流会（授業交流）
笠松小学校において、3つの学級の算数の授業を公開したのち、全体で協議を実施
- ・ 1月下旬 小中音楽交流打合せ
- ・ 2月 4日 音楽交流（小6年生・中2年生）



- ・ 2月22日 第4回実行委員会
次年度の合同行事の内容について検討

取組のポイント
とその成果

(ポイント)

①交流行事で中学生に責任ある役割を課している

幼・小・中合同運動会や小・中音楽交流会では、中学生が幼稚園・小学生に対し演技を指導し、リーダーとしての自覚と責任をもたせることを意識した。

②幼・小・中の教職員やPTA組織の連携を強化している。

代表者による合同実行委員会、合同職員会議、合同PTA役員会といったあらゆるレベルの会議を通して、細部までの計画を作成した。

③日常から学校職員や保護者間の交流・連携を図っている。

授業交流会や懇親会を通して、幼小中の教職員は、子ども達の「育ち」の情報を共有しており、保護者同士はPTAの「合同視察研修会」等を通じて信頼関係を築いており、常に協力しながら学校をサポートできる体制ができている。

(成果)

以下は、「合同運動会を終えて」と題した感想文である。

〈生徒の感想〉

○中学に入って初めての運動会でした。小学校の時から中学生の演技をずっと見ていてすごいなあと思っていました。実際に中学生になってみると、そのための練習はすごくきつくて大変でした。運動会を通して私は「助け合うことの大切さ」をあらためて実感することができました。わからないことがあった時には、友達にきいて協力してもらったり、友達がわからないところは一緒に合わせたりすることで、協力が深まって、もっと仲良なれたりするからです。(中1生徒)

○幼、小、中が一つになっていた。(生徒アンケート「運動会がとともよかった理由」)

〈保護者の感想〉

○「幼、小、中の合同」と聞いて、はじめはごちゃごちゃしているのかなと思ったけど、それぞれが助け合いお互いを生かしてしっかり競技できていたと思います。地域の人も関わっていたし、みんな家族のように感じました。

○・・・幼、小、中がみんな真剣にされていてとてもよかったです。来年もこんな運動会にしてください。

○・・・小学生は中学生により刺激を受けており、憧れや尊敬が芽生えているように感じられました。(笠松小学校保護者アンケートより)

①達成感から自尊感情へ

合同運動会を通じて、園児や児童といった年少者については、将来の自分の役割に対する意識づけと年長者への畏敬の念が、逆に指導的役割を果たす年長者については、「年少者に見られている」意識から、自立心や思いやりの心が生じている。紅白に分かれ、優勝を目標に一致団結して競い合うことから、すべての競技、応援、準備体操にいたるまで、単独運動会には見られない、子ども達の真剣かつ全力で取り組む姿勢が見られ、特に中学生については、演技指導を行う等、交流に積極的に関わっていることから、行事を終えると、やりとげた達成感から自信がみなぎっており、自尊感情の高揚につながっている。

②「小1プロブレム」・「中1ギャップ」の解消

中学校の文化祭にも、小学生が自発的に多数来校し、合同運動会で中学生と一緒に演じたダンスに興じるなど、確実に心の交流が広がっている。

これら一連の継続した校種間交流を通じて、子ども達や保護者の間に一体感と安心感が広がっており、学校段階等の区切りが原因とみられる「小1プロブレム」や「中1ギャップ」問題の解消にもつながっている。

③地域の一体化と学校への支援

地域においても、9月の合同運動会は年中行事の1つとして、すでに定着しており、お年寄り達の楽しみの1つとなっている。駐車場の提供も協力いただいている。このように地域関係者の理解と協力を得ながら、大人達みんなで、校区内のすべての子ども達を守り、育て、応援する輪が幾重にもできている。